

## 第4回消防機関におけるNBC等大規模テロ災害時における 対応能力の高度化に関する検討会議事概要

平成29年2月28日(火)

14:00～16:00

都道府県会館402会議室

### 1 冒頭

- ・ 資料確認、代理出席者の紹介、欠席者の連絡
- ・ 座長あいさつ
  - 本日が検討会の最終回。事務局では大変な資料を作成していただいた。今日はその説明を受けて、気づいたところがあれば、ご指摘等よろしくお願い申し上げます。

### 2 議題

消防機関におけるNBC等大規模災害テロ災害時における対応能力の高度化に関する検討会報告書  
(案)

- ・ 事務局より報告書(案)の概要について説明
- ・ 座長より本マニュアルの公表範囲について説明
  - 第IV編の爆弾テロ災害時における消防機関が行う活動マニュアルについては非公表
  - 参考資料の事例別時系列整理による対応要領については非公表
- ・ 委員より本マニュアルに対する意見や指摘があった。  
<進入統制ライン等>
  - (委員) 幾つか確認したい。①進入統制ラインの中に細心の注意を払えば隊員は入ることができるのか、②爆弾テロにおける進入統制ラインというのは、消防隊の方が確定するものなのか、③救助活動において危険な区域から救出する際、コレクティングポイント、傷病者をどこか1個に集めて出してくるポイントは書くのか④NBCの「ユールド」、「ウォーム」、「ホット」と爆弾テロにおける「タクティカルホットゾーン」、「タクティカルウォームゾーン」の違いは。
  - (委員) 日本では、NBCに引っ張られながら、爆弾テロがくっついてきたという印象。本来は多数傷病者対応、そこに爆弾のような重篤な外傷が加わって、さらにNBCという特別な問題も加わっているというような構成が適当ではないか。
  - (委員) 緊急時における救急救命士の処置拡大云々という議論があったが、現在、例えばアメリカでは、一般の市民の方に止血方法を啓発し、訓練された人たちを「ファースト・ケア・プロバイダー」と呼んでいる。このような言葉について、もし加えられるのであれば、追記出来ないか。
  - (事務局) 進入統制ラインの中で活動をして良いのか悪いのかという点において、最終的に、消防隊が活動するかしないかというものを判断するのは、現場の最高指揮者が警察機関の持つ安全性に関する評価等を踏まえて、具体的なアドバイスをいただき、その上で最終的に判断する。ただし、その判断をするために必要な情報が幾つかあるので、

その情報を得た上で判断すること。

- (事務局) 危険区域、準危険区域、安全区域というものについて、爆弾テロの中では、その定義というものについて、消防で決められない部分だと考えている。実際にそこに犯人がいる、銃撃戦が行われているというような警察機関からの情報共有などが重要。このため、進入統制ラインの中で活動ができるかできないか、また、区域についての考え方というのは、本マニュアルの中では具体的には示しきれていない。

#### <1次トリアージにおける除染か治療かの判断>

- (委員) 2月の京都国民保護訓練を踏まえ、ウォームゾーンでの1次トリアージについて、傷病者によって除染よりも治療を優先すべきかどうかの判断と、除染は、どのような種類の除染をするべきかという、この2つの観点が混ざり、1次トリアージが除染トリアージに変わってしまい、患者を集めても放置している状態にあった。まず、患者にとって、治療が必要なのかの判断をしないと、命は救えない状況となるため、うまく1次トリアージに書き加えて欲しい。NRの時系列においても、汚染の管理よりも爆弾の外傷による救命が必要であるという判断をする1次トリアージが大切と考える。
- (委員) 国民保護訓練の中で気になったのが、1次トリアージではSTART法は使わない、トリアージタグは使わない、除染の方法だけを区別する、そういう訓練がされている。そして、1次トリアージの場所に、全部の傷病者を集めてずっと放置されている。これは、重症度に関わらずずっと放置されている、これは極めて具合が悪い。それと、もう一つは、エスケープフードとかマスクとかを使う基準というのをぜひ書いてほしい。
- (委員) トリアージタグを使わないということが前面に立ちすぎて、被災者の重症度判定というものがされない訓練になりつつある。
- (事務局) これまで除染というのは大変重要な事項であったので、除染トリアージの意識が強くなっている可能性がある。指摘のあったとおり、それが最終的に救命につながる形になっているのであれば、書き方について調整をする。
- (委員) いわゆる9.11でも、爆発したときに崩れた物のほこり等で消防隊の方々が非常に重篤な気管支障害を発症しているの、この止血帯、感染症予防の下にじん肺対応みたいなことを1行加えていただきたい。また隊員の健康管理は、全部含めた共通事項なので、ページ数は少なくとも編立てのほうが正しいのではないかと。
- (事務局) 調整をさせていただきたい

#### <統制ラインと隊員の安全確保について>

- (委員) 例えばボストンマラソンでも、爆破後は、自分の荷物を放り出して逃げており、そうすると、そこら中に荷物がたくさん落ちていて、それ全てが不審物件だということになると、その全てをクリアするまでは、消防は動けないのか、救助活動できないのかといったら、そうではないと思う。現場の現実的な判断という意味では、確実にこれが爆発物らしいぞということが言われるまでは、もう活動せざるを得ないのではないかとというのが私の意見です。
- (事務局) 実際に隊員の安全管理と迅速な救命救助と、その両立を図っていく必要があるという議論をずっとしていると認識している。そこは現場の状況に応じて、警察機関

からの情報、警察機関の動きも見ながら消防機関として判断していくということだと思っている。その中で安全管理と迅速な救命救急を両立させなければいけないというところは基本と考えており、本マニュアルの中に、方向性みたいなものを明文で入れていくというのは、現場の指揮者の判断を拘束するようなことにもなってくるのかなと、事務局内でも議論して考えている。もう少し判断基準を明確に示せばいいと思うが、まず、隊員の安全管理という要素を、今回、マニュアルで入れると、それが大きな第一歩だと考えている。

- （委員）このマニュアルは非常によく書けているというか、「隊員の安全確保に関し、細心の注意を払い」と書いている。そして、「総合的に判断する」と。これ以上具体的に、文章にはできないのではないか。
- （座長）この問題はなかなか本質に迫っているところがあるが、今までの消防隊だと爆発した後でもそのまま突っ込んで行ってしまい、そのまま始めてしまうし、ブレーキをかけてもそういうふうにしてしまうのではないかと、それで、こういう書きぶりになっているところがあるのではないかと思います。全体的には、最後は消防庁と消防機関の判断がこの報告書にあらわれると思いますので、先生方のご懸念等もよく考えながら、最後、慎重に表現を考えていただければ。
- （委員）機関ごとの見方があるので、これは消防のマニュアルだということを明確にしていれば、その他の機関が読んでも、「これは消防のマニュアル的書き方ですね」という認識を持ってもらえるのではないか。
- （事務局）資料全体の構成として、やはり消防機関が使い、射程としても、覚知から救急搬送までというところをターゲットとしている。そのような記述もしているが、若干物足りないということであれば、より明確に書くという形で、調整したい。
- （委員）隊員の安全確保をことさらにきちんと明記したことに大変感謝している。現場は、福島の事案を見ても、消防機関の方々は、自分の命を顧みずに、どうしても無理をしがちなので、安全確保をきちんと整えた上でやりなさいということをごとさらに明記していただくことが大事。そして、関係機関は、そのために責任を負えという意味ではなくて、まさに現場で危険な中で、あえて、傷病者のために、リスクを背負って活動する隊員の安全確保に向けて、関係機関同士最大限のご協力をお願いしますという趣旨で書かれているというふうにご理解いただけたらありがたい。

#### <消防機関からのご意見>

- （委員）これまで、こちらに向かって攻撃をしてくるような災害現場で活動するというのは、議論がグレーだった部分であり、そういった意味で、消防がここで、とりあえず諸般の状況から進入統制ラインを引くと決めた以上、その先に行くのは、情報がないから安全側に立つ、その中には、とりあえず危険がないだろうではなく、危険がある、そういった方向でやらないと、我々現場で指揮する者が、消防がつくっていくマニュアルの中で、ちょっとミスリード的なメッセージも与えてしまうのではないかと思いますので、今回、安全側に立った記述を貫いたのはありがたかった。
- （委員）成田国際空港は特殊で、開港前からテロとの戦いの歴史がある。こういった中で、昨年4月に爆発物の訓練を企画したところ、各機関の役割や認識等、その辺のギャ

ップが大きい、あるいは役割が明確でない、あるいは統制が不明確であるということで、訓練企画の段階で非常に苦労した。

今回の検討会を振り返ってみて、爆発テロ災害時においては、隊員の安全確保を最優先とするという理念が樹立されたということは非常に現場にとってはありがたい。現地調整所においても、警察機関と情報共有や連携を重視するという一方で、現場の安全性の評価というものが、単独でなくて、警察機関、あるいは関係機関と協議をするというのは非常に大きなこと。また、爆弾テロに関しては、爆傷に適したトリアージとか、応急処置とか、これは本当に重大なことだと思うので、非常に有意義なマニュアルになっている。

- (委員) 爆発物災害に対する部分で、安全面に配慮したという部分を明確にしていくというのは、非常に有意義。ただ、活動の中で救助活動を優先しなければいけない部分についても確かにあろうかと思う。当局は地元の警察本部と、こういった爆発テロ等に関する部分でディスカッションする機会があり、警察はどの段階でどこが仕切るのかというのが分からない。その際重要になってくるのは、現地調整所であり、そこで情報を一元管理することがまず一番重要。

<資機材：レベルA,Cの消防と警察との違い>

- (委員) 警察と消防の連携において、資機材に関して、ホットゾーン、ウォームゾーン、コールドゾーン、それぞれのレベルAやレベルCに食い違いがある為、1度調整が必要。
- (委員) 「いや、ホットゾーンはやっぱりレベルAじゃないと」という意見が現場のほうにあるのは事実。そういう違いは、持っている装備と考え方によって若干異なっていることがあるというのは、現実の問題である。
- (委員) これからの化学剤によるテロというのは、検知がかなり早期に可能だろうと思う。装備そのものの持続時間というのが、例えば30分と2~3時間大丈夫というのでは、活動内容が異なる。検知ができればレベルCでいいということ、を進めるべき。

### 3 その他

- ・ (事務局) 3月7日までにご意見をいただき、修正をして、座長に最終確認をさせていただきたい。その後、委員・オブザーバーの方に送付する。
- ・ (座長) それでは、事務局にて、最後の仕上げをしていただきたいと思います。

委員の先生方におかれましては、1年間、ご審議、ありがとうございました。最後になりますので、私のほうから、一言お礼を申し上げたいと思います。短い期間の間によくこれだけのものをまとめたなというのが、非常に敬服するところでございます。このマニュアルをこれから消化して、実際に活動にしていくのは非常に大変だろうと思いますが、これが第一歩ということで、非常にありがとうございました。

消防機関も、爆発物については消防の得意分野だと思っておりましたが、特に人為的な爆発というのは、事故や災害で経験するものとは全く違うものだということがよくわかりまして、非常に難しいな、むしろ、NBCよりも難しい面があるのかなというふうにすら思いました。このマニュアルが第1段階で、これをもとにして、さまざまな機関との連携、実際に訓練をやっていただいて、また問題も出てくると思いますので、それについてはまた見直し

ていくということが書いてありますし、とりあえず、この報告書が立派にできることを第一段階としたいと思います。1年間、どうもありがとうございました。

#### 4 あいさつ（杉本消防庁国民保護防災部長）

- ・ 4回にわたり大変白熱した議論をいただき、誠にありがとうございました。現場で倒れられている傷病者の方、こういう方をどう救うかということと、それから、それを救うための隊員の安全の確保、この両面のせめぎ合いがその現場にあるということを感じさせていただいたところでございます。

そういう意味では、NBCマニュアルは既にありましたが、そのブラッシュアップもしていただきましたし、それから、新たに爆弾テロについてのマニュアルをつくったということで、第一歩ではありますけれども、さらに多くの命を安全に救うということでの大きな一歩だったと思います。これからは、各地方公共団体等におきまして、それぞれの現場で調整等を事前にもよくしていただくということと、訓練の中で現場を想定したより多くの人の命を救うための時間軸を持った切迫感のある訓練も積んでいただいて、その結果を次のマニュアルにフィードバックしていくことを続けていく必要があるということを感じいたしました。また、警察機関をはじめ関係機関と連携をさらに深めて、さらに踏み込んだ内容にできるように努力をしまいたいと思います。

いずれにしても、先生方には大変お世話になりました。心から御礼を申し上げまして、閉会の挨拶とさせていただきます。

#### 5 閉会